

## 令和7年度第3回 埼玉県文化芸術振興評議会 議事概要

### 1 日時

令和7年11月8日（金） 10:00~12:00

### 2 場所

埼玉会館 会議室及びオンライン参加

### 3 出席者（敬称略）

座長 友岡 邦之

副座長 林 直樹

委員 加藤 種男

委員 杉浦 幹男（オンライン）

委員 関 直子（オンライン）

委員 田中 裕子

委員 森 真理子

（以上7名）

### 4 議事

（1）開会

（2）議事

議題 第4期埼玉県文化芸術振興計画案について

・事務局から資料を用いて説明した。

#### 【委員からの主な意見】

- ・公立文化施設の担うべき役割に関する問い直しや問題提起が進んでいる。その議論を文化振興課には把握しておいてもらいたい。
- ・施策にメリハリをつけて、県独自の特色あるものをやっていく意識や仕組みが必要。
- ・次期計画で評価できる点としては、指標が複数になったこと、他部局を巻き込む形になったことである。引き続き定期的な進捗の把握と、数字の増減だけでなく、定性的な変化や社会状況の分析をもセットでお願いしたい
- ・文化芸術の「鑑賞者の割合」は指標の最重要課題ではない。1番上に上げるべきは、当事者の数である。
- ・専門家集団（アーツカウンシル）をきちんと機関として置くべき。
- ・県民の意識や活動を理解するような仕組みが必要。それがアーツカウンシルだと思うが、せめて専門家を常駐させる仕組みをつくった方がいい。
- ・情報発信のためのいろいろな事業を文化振興課が実施しているが、発信の仕方が、実際のリーチや効果という点で最善のやり方なのかということは、よくよく考えなくてはならないと思う。

- ・ ホームページによる情報発信では、利用率・活用率の向上が課題である。伝統芸能等、他地域のデータベースや全国規模の検索エンジン、国のリサーチセンター等へのリンクを設けたり、例えば美術分野の横断検索のように、一度開けば全国の関連情報にアクセスできるような、利用者が便利なものをつくることで利用率向上につながる。
- ・ 埼玉県文化アプリ「ぶんたま」の本格的運用はこれからだが、これがどのような効果を持つことになるかをきちんと検証し、効果をいろいろな側面から見ていただきたい。
- ・ 文化庁が主導している市町村の「文化財保存活用地域計画」策定については、市町村と連携して進めてほしい。無形民俗文化財の保存継承への支援については、今後も庁内で連携して取り組んでほしい。
- ・ 文化財のアーカイブ化については、国からの指示や法改正があっても、単純に実現できるものではないので、工程表を作成して取り組む必要がある。
- ・ 施策の進捗を毎年確認しながら、成果を上げていただきたい。効果を生み出すためにはどうしたらいいのかをよく考え、計画を運用していただきたい。